

平成30年度「全国学力・学習状況調査」の結果について〈資料〉

平成30年4月17日（火）に全国一斉に実施された「全国学力・学習状況調査」（以下「全国調査」）について、京都市立学校の状況をお知らせいたします。

毎年度実施されている国語、算数・数学においては、小学校及び中学校とも、全国の公立学校の平均（以下「全国平均」）を上回る結果となりました。3年ぶりに実施された理科においては、小学校で全国平均を上回り、中学校で同等の結果となりました。

1 調査の概要

- (1) 実施日 平成30年4月17日（火）
- (2) 対象学年 小学校第6学年，小中学校第6学年，総合支援学校小学部第6学年
中学校第3学年，小中学校第9学年，総合支援学校中学部第3学年
- (3) 実施教科等
- ① 教科（国語，算数・数学，理科）に関する調査
「主に知識に関する問題（A問題）」と「主に活用に関する問題（B問題）」
※理科は「知識」「活用」に関する問題を一体的に出題
 - ② 児童生徒質問紙調査 生活習慣や学習環境等に関する調査
 - ③ 学校質問紙調査 学校における指導方法や教育条件の整備の状況等に関する調査
- (4) 実施市立学校数・参加人数

	実施学校数	参加人数
小学校調査	165校（小中学校6校・総合支援学校1校含む）	10,195人
中学校調査	74校（小中学校6校・総合支援学校2校含む）	8,920人

2 教科に関する調査の結果について

(1) 小学校調査

小学校の平均正答率は、全国平均を2.3～3.7ポイント上回っています。なお、本調査が開始された平成19年度以降、全ての教科において全国平均を上回っています。

また、全ての教科の全ての設問において、本市の平均無解答率が全国平均を下回る等、平成29年度と同様に子どもたちが最後まで諦めずに解答しようとする姿勢が伺えます。

一方で、算数、理科の一部の設問において、その正答率が全国平均よりも下回っています。

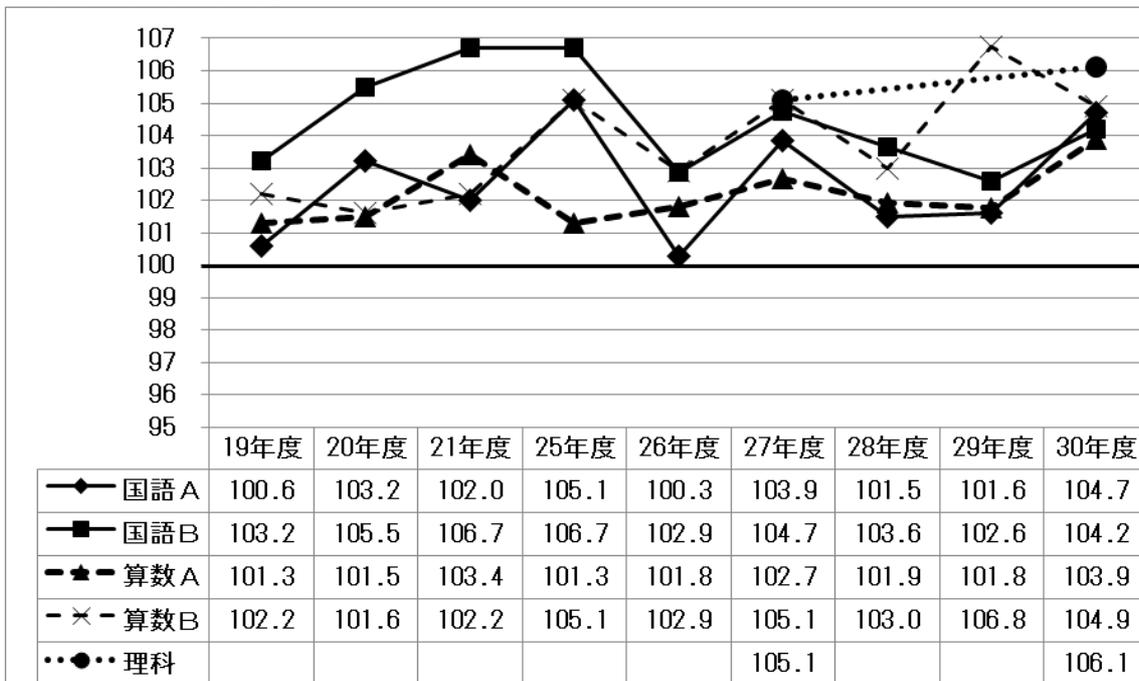
◆公立学校の平均正答率・指数

	国語A（知識）		国語B（活用）		算数A（知識）		算数B（活用）		理科（知識・活用）	
	平均正答率	指数								
京都市	74 (+3.3)	104.7	57 (+2.3)	104.2	66 (+2.5)	103.9	54 (+2.5)	104.9	64 (+3.7)	106.1
全 国	70.7	100.0	54.7	100.0	63.5	100.0	51.5	100.0	60.3	100.0

※ 指数…全国（公立）の平均正答率を100とした場合の京都市の平均正答率の値

※ 京都市の数値の下の（ ）内は全国値との差

◆本市の指数の経年変化



※平成 22 年度，24 年度は抽出調査のため除く。平成 23 年度は東日本大震災のため中止。
 ※理科は平成 27 年度から 3 年に 1 度実施。

◆分析・問題例

<国語>

- 平均正答率は，国語Aで全国平均を3.3ポイント，国語Bで2.3ポイント上回っています。
- A・B問題ともに，全ての設問で全国平均を上回っており，特に，A問題の「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」に関する問題の正答率が高くなっています。また，B問題では記述式問題の平均正答率が，全国平均を3.1ポイント上回っています。
- 一方で，A問題の「文の中における主語と述語との関係などに注意して，文を正しく書く問題」，B問題の「目的や意図に応じ，内容の中心を明確にして，詳しく書く問題」の正答率が低く，全国と同様の課題があります。

全国平均と比べて正答率が高かった問題例

- A問題 7 相手や場面に応じて適切に敬語を使う問題
 正答率 **66.8%** (全国平均 **56.0%**) 無解答率 1.7% (全国平均 2.7%)
- A問題 8 オ 漢字を文の中で正しく使う問題
 正答率 **58.5%** (全国平均 **51.4%**) 無解答率 5.2% (全国平均 7.7%)
- B問題 1 三 話し手の意図を捉えながら聞き，自分の意見と比べるなどして考えをまとめる問題
 正答率 **39.6%** (全国平均 **33.8%**) 無解答率 3.9% (全国平均 6.2%)

全国平均を上回るものの，正答率が低い等，課題と認められる問題例

- A問題 5 文の中における主語と述語との関係などに注意して，文を正しく書く問題
 正答率 **40.7%** (全国平均 **35.5%**) 無解答率 2.7% (全国平均 3.9%)
- B問題 2 二 目的や意図に応じて，内容の中心を明確にして，詳しく書く問題
 正答率 **14.9%** (全国平均 **13.5%**) 無解答率 1.7% (全国平均 2.7%)

(※全国平均と比べて正答率が低かった問題はありません)

<算数>

- 平均正答率は、算数A・Bともに、全国平均を2.5ポイント上回っています。
- 特に、「数と計算」に関する問題の正答率が高くなっています。また、B問題では記述式問題の正答率が、全国平均を3.6ポイント上回っています。
- 一方で、A問題の「直径の長さと同周の長さの関係について理解しているかを問う問題」等、一部の設問において全国平均を下回っています。また、B問題の「図形」に関する設問において全国平均を下回っています。

全国平均と比べて正答率が高かった問題例

- A問題 ① (3) 1にあたる大きさを求める問題では、除数が小数である場合でも除法を用いることを理解しているかを問う問題
正答率 **69.7%** (全国平均 **65.3%**) 無解答率 1.5% (全国平均 2.2%)
- B問題 ④ (2) 示された考えを解釈し、条件を変更して考察した数量の関係を、表現方法を適用して記述できるかを問う問題
正答率 **64.9%** (全国平均 **59.5%**) 無解答率 8.8% (全国平均 11.3%)
- B問題 ⑤ (1) 折り紙の枚数が100枚あれば足りる理由を、示された数量を関連付け根拠を明確にして記述できるかを問う問題
正答率 **47.5%** (全国平均 **43.2%**) 無解答率 13.0% (全国平均 16.6%)

全国平均と比べて正答率が低かった問題例

- A問題 ③ 十進位取り記数法(十進法)で表された数の大小について理解しているかを問う問題
正答率 **75.6%** (全国平均 **76.4%**) 無解答率 1.0% (全国平均 1.3%)
- A問題 ⑦ (2) 直径の長さと同周の長さの関係について理解しているかを問う問題
正答率 **52.5%** (全国平均 **55.6%**) 無解答率 2.0% (全国平均 3.6%)
- B問題 ① (1) 合同な正三角形で敷き詰められた模様の中に、条件に合う図形を見いだすことができるかを問う問題
正答率 **69.6%** (全国平均 **71.7%**) 無解答率 0.2% (全国平均 0.3%)

<理科>

- 平均正答率は、全国平均を3.7ポイント上回っています。
- 特に、「知識・理解を問う問題」の正答率が高くなっています。
- 一方で、「太陽の1日の位置の変化と光電池に生じる電流の変化の関係を目的に合ったものづくりに適用できるかを問う問題」は全国平均を下回っています。また、「予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して実験を構想することができるかを問う問題」や記述式の問題に課題が見られます。

全国平均と比べて正答率が高かった問題例

- ② (1) 堆積作用について、科学的な言葉や概念を理解しているかを問う問題
正答率 **90.8%** (全国平均 **83.6%**) 無解答率 0.0% (全国平均 0.1%)
- ② (4) より妥当な考えをつくり出すために、複数の情報を関連付けながら、分析して考察できるかを問う問題
正答率 **67.0%** (全国平均 **59.8%**) 無解答率 0.2% (全国平均 0.3%)
- ④ (4) 実験結果から言えることだけに言及した内容に改善し、その内容を記述できるかを問う問題
正答率 **41.7%** (全国平均 **35.9%**) 無解答率 7.1% (全国平均 8.9%)

全国平均と比べて正答率が低かった問題例

- ③ (4) 太陽の1日の位置の変化と光電池に生じる電流の変化の関係を目的に合ったものづくりに適用できるかを問う問題
正答率 **39.0%** (全国平均 **41.9%**) 無解答率 0.3% (全国平均 0.6%)

(2) 中学校調査

国語・数学の平均正答率は、平成26年度以降、全国平均を上回っています。今年度においても全国平均をそれぞれ0.8～1.1ポイント上回っていますが、3年ぶりに実施された理科の平均正答率は、全国平均を0.1ポイント下回っています。

9割程度の設問において、本市の平均無解答率が全国平均を下回る等、平成29年度と同様に子どもたちが最後まで諦めずに解答しようとする姿勢が伺えます。

一方で、特に国語、数学、理科ともに「知識・技能」に関する一部の設問で、その正答率が全国平均より低く、基礎的・基本的な知識・技能の定着状況に課題が見られます。

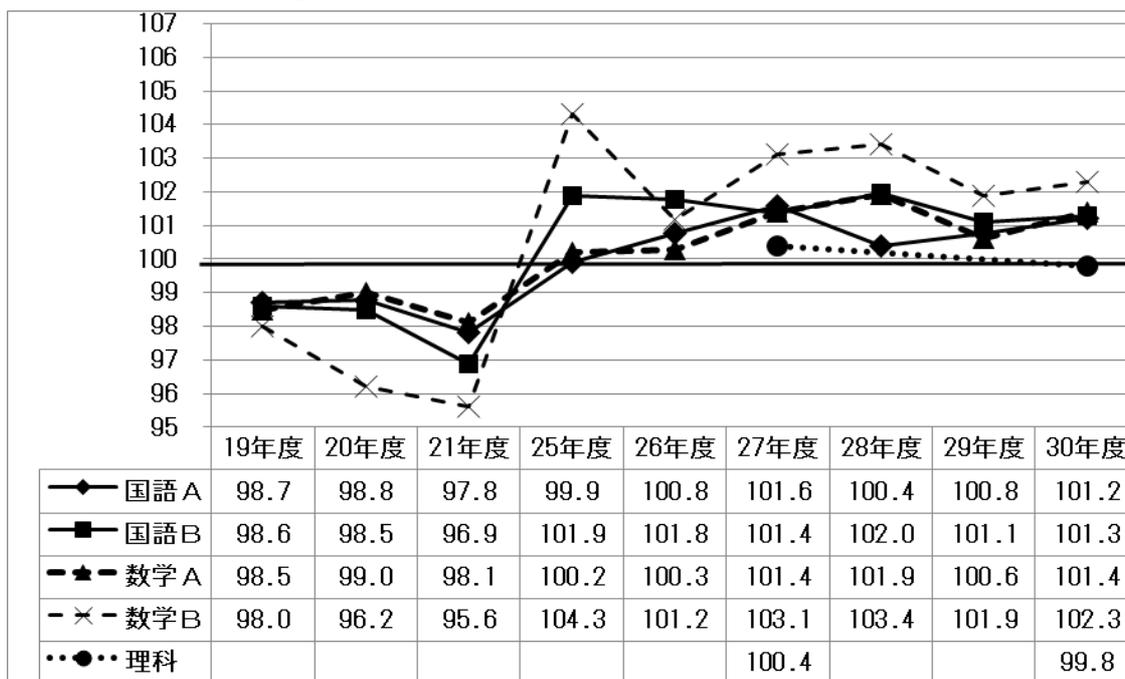
◆公立学校の平均正答率・指数

	国語A (知識)		国語B (活用)		数学A (知識)		数学B (活用)		理科 (知識・活用)	
	平均正答率	指数								
京都市	77 (+0.9)	101.2	62 (+0.8)	101.3	67 (+0.9)	101.4	48 (+1.1)	102.3	66 (▲0.1)	99.8
全国	76.1	100.0	61.2	100.0	66.1	100.0	46.9	100.0	66.1	100.0

※ 指数…全国（公立）の平均正答率を100とした場合の京都市の平均正答率の値

※ 京都市の数値の下の（ ）内は全国値との差

◆本市の指数の経年変化



※平成22年度、24年度は抽出調査のため除く。平成23年度は東日本大震災のため中止。

※理科は平成27年度から3年に1度実施。

◆分析・問題例

<国語>

- 平均正答率は、国語Aで全国平均を0.9ポイント、国語Bで0.8ポイント上回っています。
- 特に、A問題では「話すこと、聞くこと」に関する問題、B問題では「書くこと」「読むこと」に関する問題の正答率が高くなっています。
- 一方で、A問題では「歴史的仮名遣い」や「語句の活用」など「伝統的な言語文化と国との特質に関する事項」に関する問題に課題が見られます。また、B問題では「全体と部分との関係に注意して相手の反応を踏まえながら話す問題」などに課題が見られます。

全国平均と比べて正答率が高かった問題例

- A問題 2 二 伝えたい事実や事柄が相手に分かりやすく伝わるように書く問題
正答率 **66.2%** (全国平均 **64.0%**) 無解答率 2.7% (全国平均 3.3%)
- A問題 8 三 ウ 語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う問題
正答率 **91.2%** (全国平均 **88.0%**) 無解答率 0.5% (全国平均 0.6%)
- B問題 3 三 相手に的確に伝わるように、あらすじを捉えて書く問題
正答率 **52.1%** (全国平均 **49.2%**) 無解答率 8.6% (全国平均 12.4%)

全国平均と比べて正答率が低かった問題例

- A問題 8 六 2 歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む問題
正答率 **61.4%** (全国平均 **63.0%**) 無解答率 6.0% (全国平均 7.4%)
- B問題 2 三 全体と部分との関係に注意して相手の反応を踏まえながら話す問題
正答率 **53.1%** (全国平均 **54.6%**) 無解答率 0.5% (全国平均 0.4%)
- B問題 3 二 登場人物の言動の意味などを考え、内容の理解に役立てる問題
正答率 **68.0%** (全国平均 **68.2%**) 無解答率 0.3% (全国平均 0.4%)

<数学>

- 平均正答率は、数学Aで全国平均を0.9ポイント、数学Bで1.1ポイント上回っています。
- 特に、A問題では「図形」に関する問題、B問題では「数と式」に関する問題の正答率が高くなっています。また、平成29年度全国平均を下回った「資料の活用」に関する問題も、全国平均を上回っています。
- 一方で、A問題では「絶対値の意味を理解しているかを問う問題」、「数量の大小関係を不等式に表すことができるかを問う問題」で全国平均を下回っており、基礎的・基本的な知識・技能の定着状況に課題が見られます。また、B問題では「関数」に関する問題に課題が見られます。

全国平均と比べて正答率が高かった問題例

- A問題 1 (3) 指数を含む正の数と負の数の計算ができるかを問う問題
正答率 **73.0%** (全国平均 **68.9%**) 無解答率 0.7% (全国平均 1.0%)
- A問題 14 (2) 与えられた資料から中央値を求めることができるかを問う問題
正答率 **78.8%** (全国平均 **74.0%**) 無解答率 3.6% (全国平均 4.6%)
- B問題 4 (3) 付加された条件の下で、新たな事柄を見だし、説明することができるかを問う問題
正答率 **45.0%** (全国平均 **42.3%**) 無解答率 21.6% (全国平均 24.6%)

全国平均と比べて正答率が低かった問題例

- A問題 1 (2) 絶対値の意味を理解しているかを問う問題
正答率 **65.0%** (全国平均 **69.0%**) 無解答率 6.2% (全国平均 7.3%)
- A問題 2 (1) 数量の大小関係を不等式に表すことができるかを問う問題
正答率 **39.1%** (全国平均 **41.5%**) 無解答率 7.5% (全国平均 8.5%)
- B問題 3 (3) 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかを問う問題
正答率 **12.1%** (全国平均 **13.2%**) 無解答率 29.4% (全国平均 33.4%)

<理科>

- 平均正答率は、全国平均を0.1ポイント下回っています。
- 「関心・意欲・態度」、「思考・表現」に関する問題は全国平均を上回っています。
- 一方で、「神経系の働きについての知識を身に付けているかを問う問題」、「アルミニウムの原子の記号の表し方についての知識を身に付けているかを問う問題」をはじめ、「知識・理解を問う問題」に課題が見られ、習得すべき知識・技能の確実な定着が求められます。

全国平均と比べて正答率が高かった問題例

- ⑦ (2) 緊急地震速報を受け取ってからS波による揺れが始まるまでの時間が最も長い観測地点を指摘できるかを問う問題
正答率 **81.1%** (全国平均 **78.5%**) 無解答率 0.4% (全国平均 0.5%)
- ⑧ (3) アルミニウムは水の温度変化に関係していることについての新たな問題を見いだすことができるかを問う問題
正答率 **78.2%** (全国平均 **74.0%**) 無解答率 17.3% (全国平均 20.3%)
- ⑨ (2) 植物を入れた容器の中の湿度が高くなる蒸散以外の原因を指摘できるかを問う問題
正答率 **22.3%** (全国平均 **19.4%**) 無解答率 17.9% (全国平均 21.4%)

全国平均と比べて正答率が低かった問題例

- ② (2) 濃度が異なる食塩水のうち、特定の質量パーセント濃度のものを指摘できるかを問う問題
正答率 **44.8%** (全国平均 **46.9%**) 無解答率 1.3% (全国平均 1.3%)
- ⑤ (1) 神経系の働きについての知識を身に付けているかを問う問題
正答率 **48.2%** (全国平均 **57.2%**) 無解答率 8.5% (全国平均 7.1%)
- ⑧ (1) アルミニウムの原子の記号の表し方についての知識を身に付けているかを問う問題
正答率 **79.2%** (全国平均 **83.5%**) 無解答率 0.4% (全国平均 0.6%)

3 児童生徒質問紙調査の結果について

児童生徒の学校生活・社会生活での意識や学習に対する関心・意欲・態度については概ね平成29年度と同様であり、肯定的な回答（「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」又は「している」、「どちらかといえば、している」）をした児童生徒の割合が全国平均を上回る項目もありました。学習時間や家庭学習、読書時間などの項目は平成29年度と比較して改善が見られるものの、依然として全国平均を下回り、引き続き改善に取り組むべき課題となっています。

ここでは、「学習時間・家庭学習」、「基本的な生活習慣」、「読書」、「自己有用感、規範意識等」、「地域・社会への関心、自然体験等」などと学力との関連を分析しています。

子どもたちの確かな学力の定着・向上はもとより、豊かな学びと健やかな育ちのためには、家庭学習など自学自習の学習サイクルの確立をはじめ、日々の生活において、子どもたちの規範意識や自尊感情を高め、地域や社会に関心を持たせ実際に地域での活動につなげるなど、家庭・地域・学校における継続的な取組が重要であることが読み取れる結果となっています。

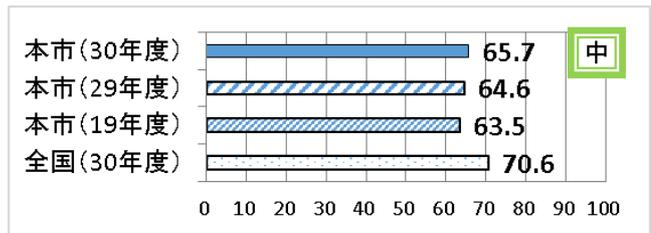
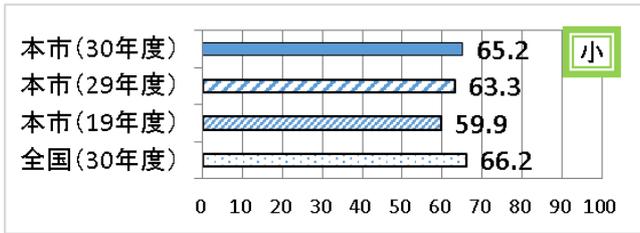
(1) 学習時間・家庭学習

授業以外で「平日1日1時間以上勉強する」児童生徒は、平成29年度よりも増加傾向にありますが、依然として全国平均を下回っています。また、「30分より少ない」、「全くしない」と答えた児童生徒についても、平成29年度より減少傾向にありますが、依然として全国平均を上回っています。「家での計画的な学習」や「家での予習・復習」を「あまりしていない」、「全くしていない」児童生徒も同様に全国平均を上回り、特に中学校では10ポイント程度上回る結果となっています。また、「家で学校の宿題」を「あまりしていない」、「全くしていない」児童生徒は平成29年度より減少傾向にあるものの、中学校では全国平均を上回っています。

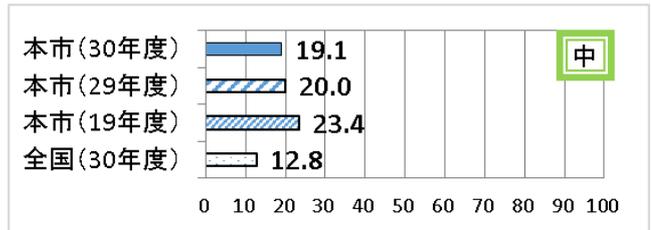
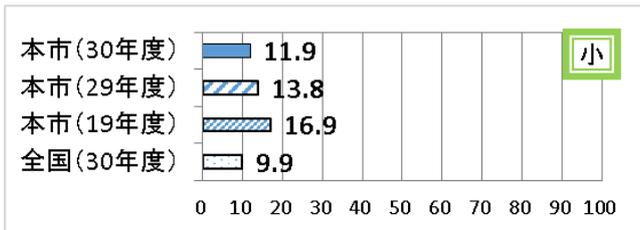
小・中学校ともに、「計画的な学習や予習・復習、宿題にしっかりと取り組んでいる児童生徒ほど、平均正答率が高く」、平日の学習時間の長さとも正答率についても一定関連が見られます。

○平日の学習時間（「1時間以上」と回答した割合）（単位：％）

* 授業以外、また学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む（以下同じ）



○平日の学習時間（「30分より少ない」「全くしない」と回答した割合）（単位：％）



【京都市立小学校 クロス集計】

* その他・無回答を除くため、児童生徒数の割合の合計は必ずしも100%とはならない（以下同じ）

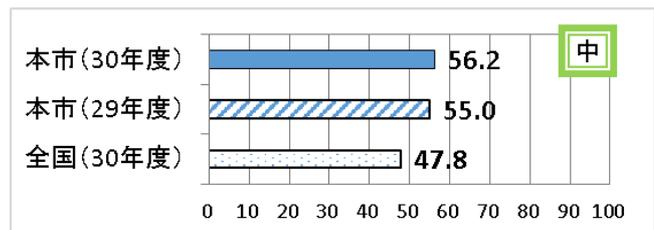
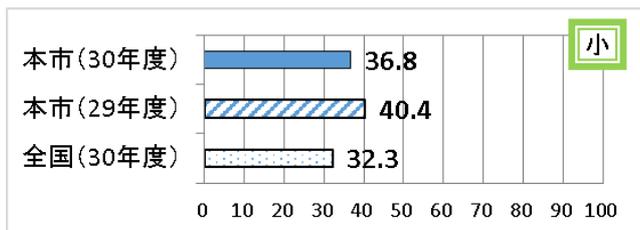
学校の授業時間以外に、平日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(選択肢)	児童数割合	平均正答率				
		国語 A	国語 B	算数 A	算数 B	理科
3時間以上	17.3%	83.9%	66.3%	78.7%	68.9%	71.5%
2時間以上, 3時間未満	17.6%	76.1%	59.6%	67.4%	55.6%	65.2%
1時間以上, 2時間未満	30.3%	73.9%	56.8%	64.1%	52.5%	63.2%
30分以上, 1時間未満	22.7%	71.7%	54.1%	62.2%	49.4%	61.8%
30分未満	8.5%	65.5%	47.2%	56.5%	43.7%	56.9%
全くしない	3.4%	60.5%	44.6%	52.9%	39.0%	53.6%

【京都市立中学校 クロス集計】

学校の授業時間以外に、平日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(選択肢)	生徒数割合	平均正答率				
		国語 A	国語 B	数学 A	数学 B	理科
3時間以上	13.1%	80.6%	66.8%	74.4%	55.8%	70.2%
2時間以上, 3時間未満	23.9%	78.9%	64.5%	71.6%	51.9%	68.7%
1時間以上, 2時間未満	28.7%	77.0%	62.4%	67.7%	48.0%	65.9%
30分以上, 1時間未満	15.0%	76.2%	61.4%	64.4%	45.6%	65.3%
30分未満	10.7%	73.9%	59.1%	60.8%	42.1%	63.2%
全くしない	8.4%	69.8%	55.0%	53.8%	36.6%	57.5%

○家での計画的な学習（「あまりしていない」「全くしていない」と回答した割合）（単位：％）

* 19年度は同様の質問が無い。



【京都市立小学校 クロス集計】

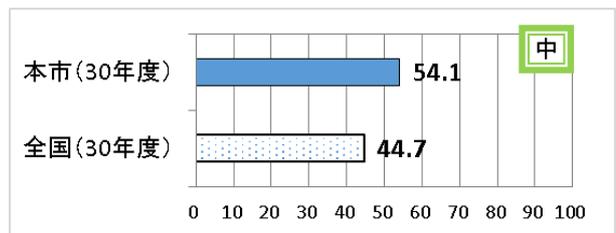
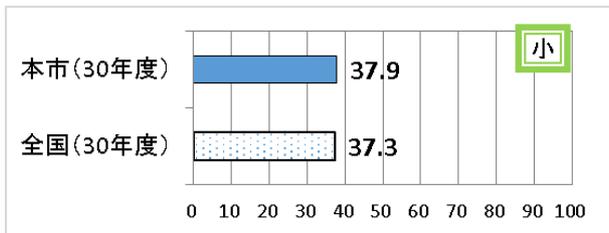
家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか(選択肢)	児童数割合	平均正答率				
		国語 A	国語 B	算数 A	算数 B	理科
している	26.1%	79.0%	61.6%	70.5%	60.0%	66.8%
どちらかといえば、している	36.9%	75.4%	58.9%	66.8%	55.5%	65.0%
あまりしていない	28.2%	71.9%	54.2%	62.9%	50.3%	61.7%
全くしていない	8.6%	63.9%	45.3%	56.0%	41.0%	56.4%

【京都市立中学校 クロス集計】

家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか(選択肢)	生徒数割合	平均正答率				
		国語 A	国語 B	数学 A	数学 B	理科
している	11.9%	79.3%	64.7%	72.8%	54.7%	70.1%
どちらかといえば、している	31.9%	78.3%	64.1%	69.9%	50.4%	67.9%
あまりしていない	39.9%	76.5%	61.8%	65.7%	46.6%	65.4%
していない	16.3%	73.1%	58.4%	60.9%	41.5%	61.1%

○家での予習・復習（「あまりしていない」「全くしていない」と回答した割合）（単位：％）

*30年度新規の質問。



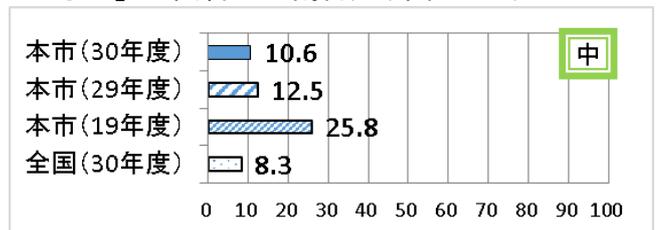
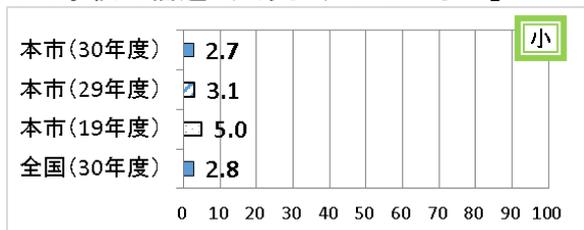
【京都市立小学校 クロス集計】

家で、学校の授業の予習・復習をしていますか(選択肢)	児童数割合	平均正答率				
		国語 A	国語 B	算数 A	算数 B	理科
している	26.0%	78.7%	61.2%	69.6%	59.1%	67.0%
どちらかといえば、している	36.0%	74.8%	58.0%	65.9%	54.2%	64.2%
あまりしていない	28.2%	71.7%	54.3%	63.1%	50.8%	61.7%
全くしていない	9.7%	68.8%	51.0%	62.5%	48.4%	59.9%

【京都市立中学校 クロス集計】

家で、学校の授業の予習・復習をしていますか(選択肢)	生徒数割合	平均正答率				
		国語 A	国語 B	数学 A	数学 B	理科
している	12.8%	77.7%	62.7%	70.9%	51.5%	68.3%
どちらかといえば、している	33.0%	78.2%	63.8%	69.3%	50.2%	67.9%
あまりしていない	37.5%	76.7%	61.9%	65.9%	46.5%	65.1%
全くしていない	16.6%	73.9%	60.0%	62.5%	44.1%	62.7%

○家での学校の宿題（「あまりしていない」「全くしていない」と回答した割合）（単位：％）



【京都市立小学校 クロス集計】

家で、学校の宿題をしていますか (選択肢)	児童数割合	平均正答率				
		国語 A	国語 B	算数 A	算数 B	理科
している	87.6%	76.0%	59.0%	67.2%	56.0%	65.1%
どちらかといえば、している	9.5%	64.7%	45.9%	57.1%	41.8%	56.4%
あまりしていない	2.1%	55.0%	36.4%	51.2%	34.4%	51.2%
全くしていない	0.6%	52.8%	34.3%	45.4%	28.4%	45.3%

【京都市立中学校 クロス集計】

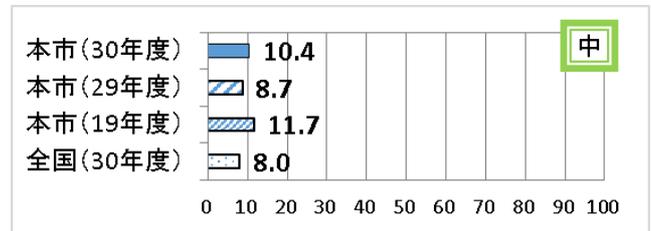
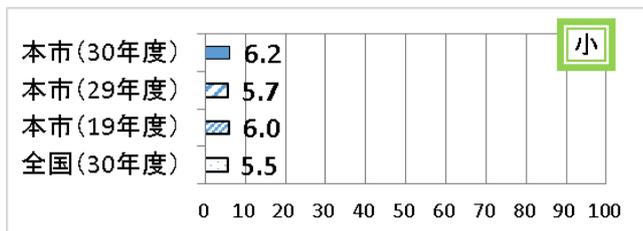
家で、学校の宿題をしていますか (選択肢)	生徒数割合	平均正答率				
		国語 A	国語 B	数学 A	数学 B	理科
している	57.0%	79.5%	65.5%	71.6%	52.7%	69.6%
どちらかといえば、している	32.2%	75.1%	60.0%	63.8%	44.1%	63.4%
あまりしていない	8.4%	68.6%	53.0%	54.0%	35.0%	56.3%
全くしていない	2.2%	64.4%	49.5%	47.9%	29.9%	50.2%

(2) 基本的生活習慣

「朝食を毎日食べていますか」という質問に「あまりしていない」、「全くしていない」と回答した児童生徒は全国平均を上回っており、ここ5年で最も多くなっています。**小学校では20人に1人以上、中学校では10人に1人以上の子どもたちが朝食をあまり食べていない・全く食べていないことがわかります。**

朝食を食べることをはじめとする基本的生活習慣の確立は、子どもたちの「知・徳・体」を育むうえでとても重要なことです。ご家庭での習慣づけ、働きかけをお願いいたします。

○朝食を毎日食べている（「あまりしていない」または「全くしていない」と回答した割合）（単位：％）



【京都市立小学校 クロス集計】

朝食を毎日食べていますか(選択肢)	児童数割合	平均正答率				
		国語 A	国語 B	算数 A	算数 B	理科
している	82.9%	76.0%	58.7%	67.2%	55.8%	65.2%
どちらかといえば、している	10.8%	69.3%	52.2%	61.0%	47.9%	59.5%
あまりしていない	4.7%	64.2%	45.3%	54.8%	40.8%	53.2%
全くしていない	1.5%	54.4%	40.8%	51.5%	36.7%	50.0%

【京都市立中学校 クロス集計】

朝食を毎日食べていますか(選択肢)	生徒数割合	平均正答率				
		国語 A	国語 B	数学 A	数学 B	理科
している	75.3%	78.2%	64.1%	69.8%	50.6%	68.1%
どちらかといえば、している	14.3%	74.5%	58.3%	61.5%	42.3%	61.9%
あまりしていない	6.6%	71.3%	55.2%	56.3%	37.9%	58.3%
全くしていない	3.8%	68.7%	54.0%	52.7%	34.7%	55.1%

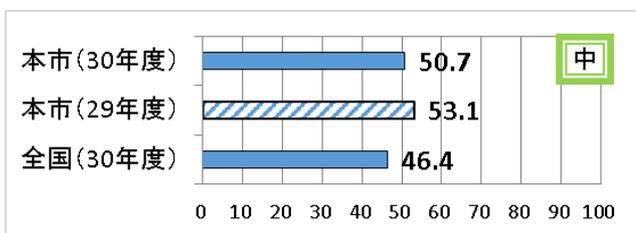
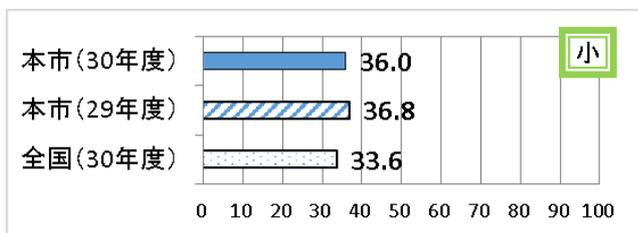
(3) 読書

「読書時間が10分よりも少ない」児童生徒は、平成29年度よりも減少傾向にありますが、依然として全国平均を上回っており、特に中学生の読書離れが懸念されます。

小・中学校ともに、「平日に読書を全くしないという児童生徒の平均正答率は、読書をする児童生徒と比べて低く」なっています。

○読書時間（「10分よりも少ない」と回答した割合）（単位：％）＊19年度は同様の質問が無い。

＊授業以外、また教科書や参考書、漫画や雑誌を除く（以下同じ）



【京都市立小学校 クロス集計】

学校の授業時間以外に、平日に、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(選択肢)	児童数割合	平均正答率				
		国語 A	国語 B	算数 A	算数 B	理科
2 時間以上	7.7 %	78.7%	60.9%	68.2%	56.6%	67.2%
1 時間以上, 2 時間未満	10.4%	78.3%	60.8%	67.8%	57.4%	66.2%
30 分以上, 1 時間未満	19.7%	77.8%	61.3%	69.1%	57.6%	66.9%
10 分以上, 30 分未満	26.0%	76.1%	59.0%	67.4%	56.4%	65.4%
10 分未満	16.3%	71.5%	53.8%	63.9%	51.6%	61.3%
全くしない	19.7%	67.3%	49.7%	59.7%	46.5%	58.2%

【京都市立中学校 クロス集計】

学校の授業時間以外に、平日に、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(選択肢)	生徒数割合	平均正答率				
		国語 A	国語 B	数学 A	数学 B	理科
2 時間以上	5.4%	74.8%	61.4%	62.2%	44.2%	63.3%
1 時間以上, 2 時間未満	6.8%	76.6%	64.1%	66.5%	48.7%	67.2%
30 分以上, 1 時間未満	13.0%	76.0%	63.6%	67.1%	49.3%	67.9%
10 分以上, 30 分未満	24.1%	77.1%	64.6%	69.3%	51.1%	67.8%
10 分未満	16.4%	75.1%	61.7%	67.4%	48.7%	65.9%
全くしない	34.3%	71.4%	56.5%	62.0%	42.4%	61.0%

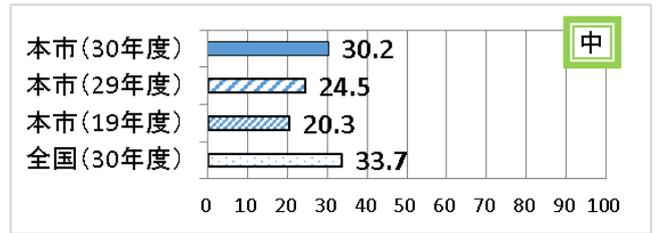
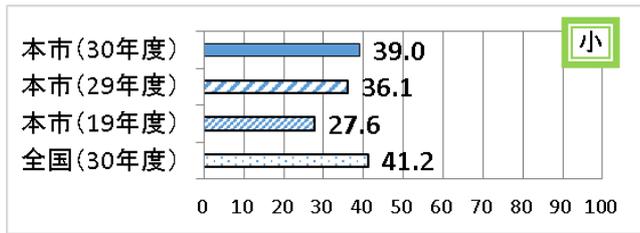
(4) 自己有用感, 規範意識等

「自分には、よいところがあると思いますか」という質問に「当てはまる」と回答している児童生徒は、平成29年度よりも増加傾向にありますが、依然として全国平均を下回っています。

また、「将来の夢や目標を持っていますか」、「学校のきまり・規則を守っていますか」という質問に「当てはまる」と回答した児童生徒は、平成19年度と比べると小・中学校ともに増加していますが、全国平均を下回っています。特に、「学校の規則を守る」生徒は、全国平均を10ポイント以上下回る結果となっています。

他にも「いじめはいけないことだと思いますか」、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」という質問に「当てはまる」と回答している児童生徒は、平成29年度と比べると小・中学校とも増加していますが、中学校では依然として全国平均を下回っています。

○自分には、よいところがあると思う（「当てはまる」と回答した割合）（単位：％）



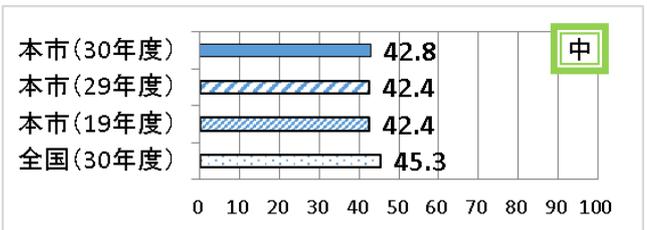
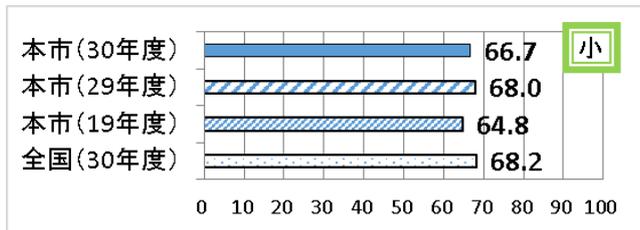
【京都市立小学校 クロス集計】

自分には、よいところがあると思いますか (選択肢)	児童数割合	平均正答率				
		国語 A	国語 B	算数 A	算数 B	理科
当てはまる	39.0%	77.2%	59.9%	69.1%	57.9%	66.3%
どちらかといえば、当てはまる	44.5%	74.0%	57.1%	65.0%	53.4%	63.4%
どちらかといえば、当てはまらない	12.7%	69.2%	50.8%	60.5%	47.3%	59.0%
当てはまらない	3.6%	66.3%	49.1%	56.7%	42.0%	57.8%

【京都市立中学校 クロス集計】

自分には、よいところがあると思いますか (選択肢)	生徒数割合	平均正答率				
		国語 A	国語 B	数学 A	数学 B	理科
当てはまる	30.2%	76.7%	62.0%	68.3%	49.1%	67.0%
どちらかといえば、当てはまる	47.4%	77.3%	63.2%	67.9%	49.1%	66.7%
どちらかといえば、当てはまらない	16.5%	76.7%	61.6%	64.7%	45.2%	64.1%
当てはまらない	5.8%	74.5%	59.1%	61.0%	41.1%	61.0%

○将来の夢や目標を持っている（「当てはまる」と回答した割合）（単位：％）



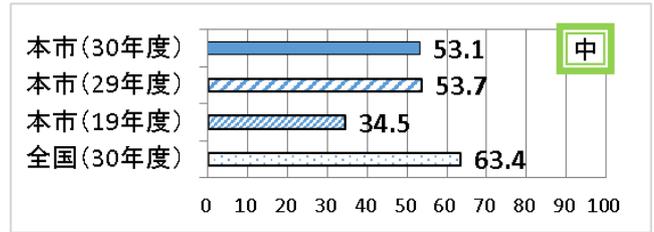
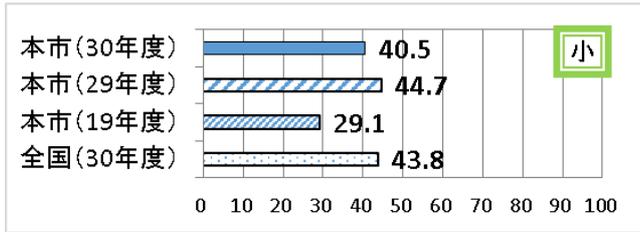
【京都市立小学校 クロス集計】

将来の夢や目標をもっていますか (選択肢)	児童数割合	平均正答率				
		国語 A	国語 B	算数 A	算数 B	理科
当てはまる	66.7%	74.5%	57.1%	65.4%	53.6%	63.5%
どちらかといえば、当てはまる	17.3%	75.9%	58.7%	67.6%	56.7%	65.5%
どちらかといえば、当てはまらない	9.2%	74.6%	58.0%	66.7%	55.6%	64.8%
当てはまらない	6.7%	68.7%	51.9%	62.9%	48.9%	60.9%

【京都市立中学校 クロス集計】

将来の夢や目標をもっていますか (選択肢)	生徒数割合	平均正答率				
		国語 A	国語 B	数学 A	数学 B	理科
当てはまる	42.8%	76.4%	61.6%	66.5%	47.2%	65.5%
どちらかといえば、当てはまる	27.5%	77.9%	63.9%	68.4%	49.9%	67.4%
どちらかといえば、当てはまらない	19.0%	77.5%	62.8%	68.3%	49.0%	66.7%
当てはまらない	10.6%	75.0%	60.5%	64.1%	44.0%	63.6%

○学校のきまり・規則を守っている（「当てはまる」と回答した割合）（単位：％）



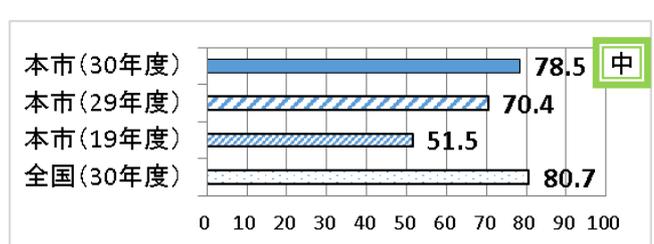
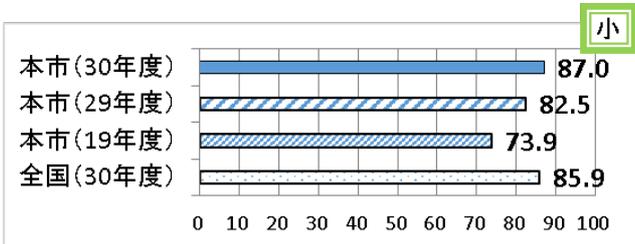
【京都市立小学校 クロス集計】

学校のきまりを守っていますか(選択肢)	児童数割合	平均正答率				
		国語 A	国語 B	算数 A	算数 B	理科
当てはまる	40.5%	76.5%	59.0%	66.7%	55.5%	64.9%
どちらかといえば, 当てはまる	48.1%	74.5%	57.6%	66.4%	54.9%	64.4%
どちらかといえば, 当てはまらない	9.6%	66.7%	49.0%	60.1%	45.6%	58.1%
当てはまらない	1.7%	62.0%	42.0%	55.5%	36.8%	50.9%

【京都市立中学校 クロス集計】

学校の規則を守っていますか(選択肢)	生徒数割合	平均正答率				
		国語 A	国語 B	数学 A	数学 B	理科
当てはまる	53.1%	77.7%	63.4%	68.9%	50.0%	67.6%
どちらかといえば, 当てはまる	41.4%	77.0%	62.3%	66.5%	47.1%	65.6%
どちらかといえば, 当てはまらない	4.4%	68.1%	51.3%	54.7%	34.3%	55.1%
当てはまらない	1.0%	67.0%	55.0%	52.3%	33.0%	51.2%

○いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思います（「当てはまる」と回答した割合）（単位：％）



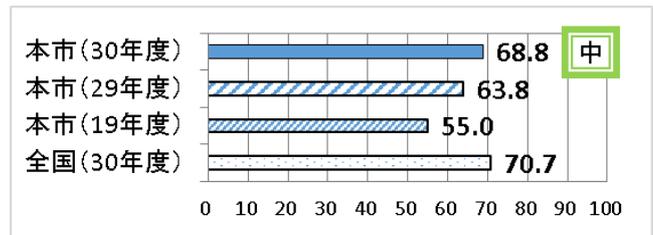
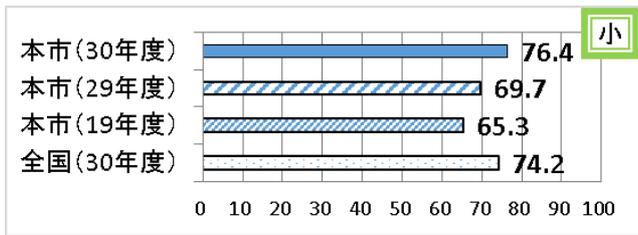
【京都市立小学校 クロス集計】

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか(選択肢)	児童数割合	平均正答率				
		国語 A	国語 B	算数 A	算数 B	理科
当てはまる	87.0%	75.1%	58.0%	66.1%	54.6%	64.3%
どちらかといえば, 当てはまる	10.3%	70.6%	52.3%	64.6%	51.4%	61.6%
どちらかといえば, 当てはまらない	1.5%	64.4%	45.5%	59.2%	44.1%	57.2%
当てはまらない	1.1%	62.1%	47.7%	56.0%	40.9%	53.5%

【京都市立中学校 クロス集計】

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか(選択肢)	生徒数割合	平均正答率				
		国語 A	国語 B	数学 A	数学 B	理科
当てはまる	78.5%	76.9%	62.3%	67.0%	47.9%	66.1%
どちらかといえば, 当てはまる	16.7%	77.3%	63.2%	68.3%	49.0%	66.9%
どちらかといえば, 当てはまらない	3.0%	74.6%	60.1%	63.8%	44.9%	62.5%
当てはまらない	1.7%	74.6%	58.0%	64.0%	44.8%	61.4%

○人の役に立つ人間になりたいと思う（「当てはまる」と回答した割合）（単位：％）



【京都市立小学校 クロス集計】

人の役に立つ人間になりたいと思いますか(選択肢)	児童数割合	平均正答率				
		国語 A	国語 B	算数 A	算数 B	理科
当てはまる	76.4%	75.7%	58.9%	66.9%	55.5%	65.0%
どちらかといえば、当てはまる	19.3%	70.9%	52.7%	63.1%	50.6%	60.9%
どちらかといえば、当てはまらない	3.1%	65.5%	45.2%	57.3%	41.2%	55.1%
当てはまらない	1.0%	59.9%	40.1%	53.6%	38.1%	52.7%

【京都市立中学校 クロス集計】

人の役に立つ人間になりたいと思いますか(選択肢)	生徒数割合	平均正答率				
		国語 A	国語 B	数学 A	数学 B	理科
当てはまる	68.8%	77.5%	63.0%	68.3%	49.2%	67.1%
どちらかといえば、当てはまる	27.0%	75.9%	61.6%	65.3%	45.9%	64.6%
どちらかといえば、当てはまらない	2.8%	72.3%	57.8%	60.9%	41.5%	60.2%
当てはまらない	1.2%	69.8%	52.5%	55.4%	37.3%	55.3%

（５）地域・社会への関心、自然体験等

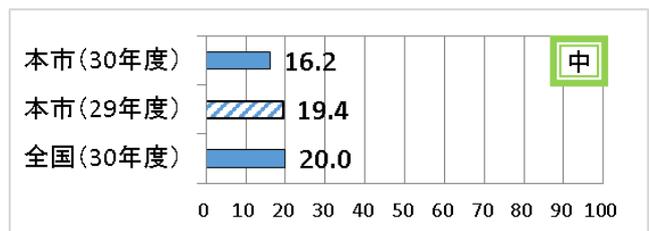
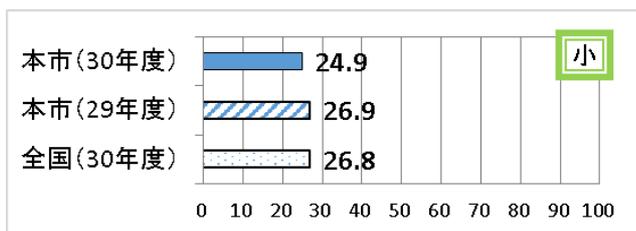
全国的な傾向として、小学生から中学生へと進学するにしたがって、地域・社会の出来事への関心が希薄化しています。本市では、平成 29 年度と比べて小・中学校ともに地域・社会へ関心がある児童生徒の割合が減少し、全国平均を下回っています。また、全国平均と比べて、**本市の児童生徒はボランティア活動の経験が少なく、また「分からない」と回答している児童生徒も約 4 割**となっています。「自然の中で遊んだことや自然観察をしたことがありますか」という質問に「当てはまる」と回答した児童生徒は中学校では平成 27 年度と比べて増加していますが、小・中学校ともに全国平均を下回っています。

学力との関係については、「地域・社会の出来事への関心」、「ボランティア活動経験」、「自然の中での遊びや自然観察の経験」において、「**肯定的な選択肢を回答した児童生徒のほど、平均正答率が高い**」傾向を示しており、これは、全国的な傾向でもあります。

学校での学びとともに、地域や社会との関わり等を通して、実際に体験したり、何らかの役割を担ったりする等、子どもたちが様々な体験・経験を積み重ねていくことの重要性が伺えます。

○地域・社会の出来事への関心（「当てはまる」と回答した割合）（単位：％）

* 19 年度は同様の質問が無い。



【京都市立小学校 クロス集計】

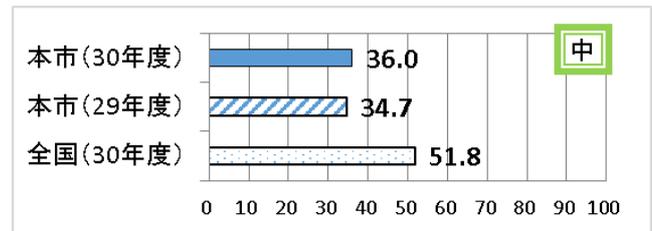
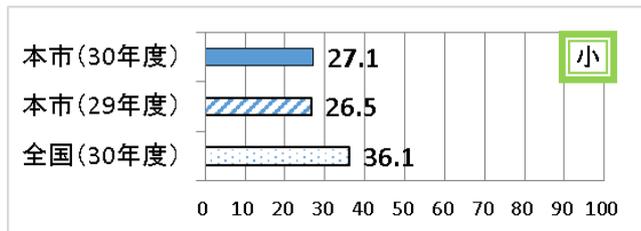
地域・社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか(選択肢)	児童数割合	平均正答率				
		国語 A	国語 B	算数 A	算数 B	理科
当てはまる	24.9%	79.7%	62.7%	72.0%	60.7%	68.4%
どちらかといえば, 当てはまる	35.1%	76.9%	59.8%	67.2%	56.6%	66.1%
どちらかといえば, 当てはまらない	26.9%	71.0%	53.9%	62.7%	50.3%	60.8%
当てはまらない	13.0%	64.0%	45.6%	55.9%	41.4%	54.9%

【京都市立中学校 クロス集計】

地域・社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか(選択肢)	生徒数割合	平均正答率				
		国語 A	国語 B	数学 A	数学 B	理科
当てはまる	16.2%	79.5%	66.0%	71.6%	53.8%	70.7%
どちらかといえば, 当てはまる	38.7%	79.0%	64.9%	69.6%	51.0%	68.7%
どちらかといえば, 当てはまらない	31.6%	75.6%	60.7%	65.3%	45.2%	64.0%
当てはまらない	13.4%	70.6%	54.4%	58.5%	38.5%	57.4%

○ボランティア活動経験(「参加したことがある」と回答した割合)(単位: %)

*19年度は同様の質問が無い。



【京都市立小学校 クロス集計】

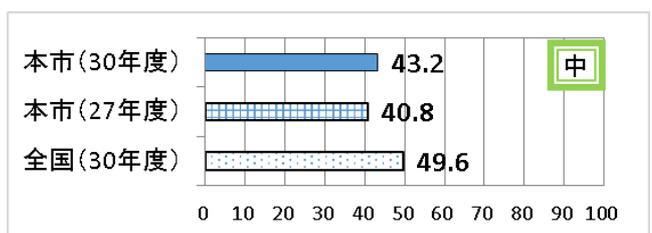
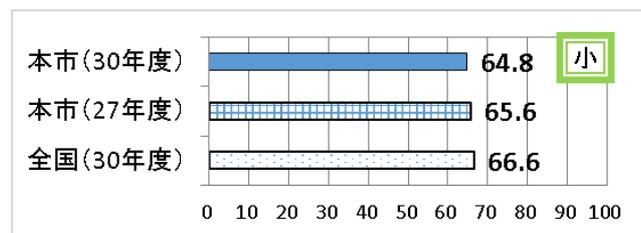
地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか(選択肢)	児童数割合	平均正答率				
		国語 A	国語 B	算数 A	算数 B	理科
参加したことがある	27.1%	76.2%	59.0%	68.4%	56.0%	65.7%
参加したことがない	28.3%	74.6%	57.5%	65.9%	54.6%	63.6%
分からない	43.4%	73.5%	56.0%	64.4%	52.7%	63.2%

【京都市立中学校 クロス集計】

地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか(選択肢)	生徒数割合	平均正答率				
		国語 A	国語 B	数学 A	数学 B	理科
参加したことがある	36.0%	78.3%	64.1%	69.9%	51.4%	68.5%
参加したことがない	27.5%	77.2%	63.1%	67.6%	48.4%	66.3%
分からない	36.3%	75.2%	60.0%	64.0%	44.3%	63.5%

○自然の中で遊んだことや自然観察をしたことがある(「当てはまる」と回答した割合)(単位: %)

*27年度以降, 3年ぶりの質問。



【京都市立小学校 クロス集計】

自然の中で遊んだことや自然観察をしたことがありますか(選択肢)	児童数割合	平均正答率				
		国語 A	国語 B	算数 A	算数 B	理科
当てはまる	64.8%	75.6%	58.1%	66.8%	55.0%	65.0%
どちらかといえば, 当てはまる	21.3%	73.2%	57.2%	64.7%	53.4%	62.9%
どちらかといえば, 当てはまらない	10.0%	72.2%	55.2%	64.3%	53.2%	62.0%
当てはまらない	3.9%	65.2%	45.6%	57.2%	41.4%	54.1%

【京都市立中学校 クロス集計】

自然の中で遊んだことや自然観察をしたことがありますか(選択肢)	生徒数割合	平均正答率				
		国語 A	国語 B	数学 A	数学 B	理科
当てはまる	43.2%	78.7%	64.7%	69.7%	51.0%	69.1%
どちらかといえば, 当てはまる	31.1%	77.1%	62.7%	67.0%	48.0%	66.1%
どちらかといえば, 当てはまらない	17.2%	75.0%	59.3%	64.5%	44.9%	63.3%
当てはまらない	8.5%	70.4%	54.7%	59.2%	38.3%	55.7%

4 京都市の学力向上の取組

本市では、子どもたちが身につけておくべき「確かな学力」を、「基礎的・基本的な知識・技能」、「習得した知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力」、さらに「学ぼうとする意欲」「生涯にわたって学び続ける力」と定義しています。そして、熱意溢れる教職員の実践はもとより、保護者・地域の皆様のご協力のもと、「確かな学力」とともに、「豊かな心」「健やかな体」の調和のとれた育成を目指しています。

(1) 京都市小中一貫学習支援プログラムの実施及び結果分析に基づいた授業改善

本市では、小・中学校の接続を意識し、宿題を含む予習や復習と既習事項が定着したかどうかをみる確認テストの実施などを通して、**自学自習の学習習慣（計画→事前学習→確認テスト→結果→事後学習）**を身につけるためのプログラムを実施しています。

確認テストを通して、子どもたちがつまづきやすいポイントや学力の定着に課題が多い単元・領域に関するデータが蓄積されています。それらのデータや全国調査の結果をもとに、本市独自の分析システムにより多面的で詳細な結果分析を行い、教職員間、さらに小・中学校間でその情報を共有し授業改善に活かしています。

学年	時期	教科	名称
小3	1月	国語, 社会, 算数, 理科	プレジョイントプログラム
小4	8~9月	国語, 算数	
	1月	国語, 社会, 算数, 理科	
小5	8~9月	国語, 算数	ジョイントプログラム
	1月	国語, 社会, 算数, 理科	
小6	8~9月	国語, 算数	
	1月	国語, 社会, 算数, 理科	
中1	4月(中1)	国語, 算数	
	10月	国語, 社会, 数学, 理科, 英語	学習確認プログラム
1~2月			
中2	7月		
	10月		
中3	1~2月		
	5月		
10月			

各家庭においても、確認テストの実施後に返却される、苦手なところや得意なところなどをまとめた資料を子どもたちと一緒にご覧いただき、家庭学習をはじめとする自学自習の習慣化に向けて、本プログラムで配布される事前学習教材や事後学習教材等をご活用ください。

(2) 小中一貫教育の更なる推進・充実

本市では、「小中一貫教育目標の設定」、「教育課程／指導形態の工夫・改善」、「教育活動の連続性の確保」、「教職員間の連携・協働」及び「家庭・地域との連携・協力」を小中一貫教育推進に関する「5つの視点」として定め、平成23年度から全ての中学校区で義務教育9年間の学びと育ちを見通した「小中一貫教育」をそれぞれの学区の状況に応じて進めています。

平成27年度末には、これまでの小中一貫教育の成果や課題を踏まえ、5つの視点に基づく取組をさらに推進するための指針である「京都市小中一貫教育ガイドライン（試案）」を策定しました。現在全ての中学校区において、義務教育卒業時の「目指す子ども像」とその実現に向けた「つきたい力」と「軸となる取組・活動」などを明らかにした「小中一貫教育構想図」を作成し、各中学校区の状況に応じた具体的な実践の更なる充実に取り組んでいます。

(3) 授業等での指導の工夫・改善や次期学習指導要領を見据えた教育課程の編成

各校における日々の指導においても、授業での学習の「めあて」の提示と「ふりかえり」の実施や、子どもたちの主体性や学習意欲を引き出す「学び合い」のある授業づくりの工夫等、従来からの取組をさらに高めるとともに、校長のリーダーシップのもと「教職員が主体的に組織的な指導を徹底して行う」学校組織とチェック体制づくりを進めています。さらに、「社会に開かれた教育課程」を中核理念とする新学習指導要領で求められている「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、これまで以上に各教科で言語活動を取り入れたり、子どもたちが自ら課題や疑問点を設定するよう授業展開を工夫したりするなど、授業改善を図っています。

(4) 新しい3学期制の導入

平成30年度から「新しい3学期制」を導入し、1年間を通した切れ目のない学習指導と適切な期間でのきめ細かな学習評価の下、子どもたちの成長を継続的に見取り、個性や長所、可能性等を伸ばす教育を展開しています。

(5) 学力向上に向けた学校への支援

本市では、基礎的・基本的な学力の定着に一定の取組が必要と認められる中学校区や学力向上に積極的に取り組もうとする中学校区に対して、教育委員会の学力向上プロジェクトチームが中心となって、中学校区及び各校の学力向上対策に関して、進捗状況を常に把握し、定期的な評価も行うなど、重点的に支援しています。

(6) 保護者・地域との連携による家庭学習への支援

本市では、学校運営協議会（平成30年9月末現在242校園に設置。小学校は全校設置）をはじめ、地域の方々・保護者・学生ボランティアの参画のもと、「土曜学習」^{※1}や「放課後まなび教室」^{※2}、「放課後・学力ステップアップ事業」^{※3}などの取組により、家庭学習や自学自習の習慣の確立、基礎学力の定着に努めています。

教室での学習だけではなく、学校運営協議会や地域が主催する行事、「みやこ子ども土曜塾」^{※4}などにおける自然体験や伝統文化体験などの体験学習、防災・安全の取組など、子どもたちが地域の方と交流する活動も大切にしています。こうした活動が地域の方々に支えられているという意識や、地域の一員として主体的に関わろうとする意識を子どもたちに育む貴重な機会となり、学力の基盤を形成する学ぶ意欲や態度だけでなく、自尊感情や自己肯定感を高めていくものと期待しています。

その他、「本」大好きな子どもの育成を目的とする読書ノートを活用した「めざせ100冊！読書マラソン」運動^{※5}や規範意識を育むためのあいさつ運動、情報モラルに関する取組など、学校、家庭、地域が一体となった一つ一つの地道な取組の継続が、本市の子どもたちの学力を支えています。

また、小・中学校入学時（小中学校においては入学時及び後期課程進学時）に子どもたちへ配布している冊子「自学自習のすすめ」において、学力向上を図るうえで大切な家庭学習のヒントをわかりやすくまとめています。子どもたちと一緒に、是非ご一読ください。

- ※1 「土曜学習」…平成23年度から全ての小・中学校で、土日祝日などの学校休業日に、学校運営協議会や保護者、地域、学生等の方々の支援をいただき、学習活動や体験活動を行っています。
- ※2 「放課後まなび教室」…平成21年度から全ての小学校区で、学校運営協議会や保護者、地域、学生等の方々の参画を得ながら、放課後の子どもたちに学習の習慣づけを図る『自主的な学びの場』と『安心・安全な居場所』として、運営しています。
- ※3 「放課後・学力ステップアップ事業」…平成29年度から全ての中学校で、家庭環境に関わらず、全ての子どもたちが可能性を最大限に伸ばし、自らの未来を切り拓いていけるよう、放課後等に基礎学力の定着を図るための学習支援を行っています。
- ※4 「みやこ子ども土曜塾」…平成16年度から、土日祝日や夏休みなどの学校休業日に青少年団体や大学、企業、NPO等が実施する伝統文化・自然活動等の体験活動をホームページ及び広報紙「京都是ぐくみ通信／G o G o 土曜塾」で発信し、平成29年度は3,598もの企画が登録される等、京都ならではの多様な資源を生かしたさまざまな学びの場についての情報を提供しています。
- ※5 「めざせ100冊！読書マラソン」運動…100冊読破達成児童数は平成29年度29,161人（全児童の47.7%）に上ります。

5 保護者・市民の皆様へ

子どもたちは、一つ一つの学習を積み上げていくことを通して、知識を増やし、できることを広げ、物事への理解を深めていきます。この地道な営みが、自立した社会の一員としてよりよく生きるうえでの支えともなる個性を伸ばし、可能性を高め、自分らしい生き方を実現する原動力を培います。こうした成長の過程を支え、質・量ともに豊かにしていくことが学校、そして、家庭や地域を含めた大人社会の役割ではないでしょうか。

「京都市小中一貫学習支援プログラム」や「小中一貫教育」など、本市の学力向上に向けた主な取組も紹介しましたが、こうした取組とともに、学校運営協議会やPTAをはじめ、多くの方々のご協力のもと、市民ぐるみ・地域ぐるみで子どもたちの学習環境を整えていただいております。

こうした取組の成果が、**全国平均を上回り政令市トップ水準となる本市の平均正答率**はもとより、**全国平均以下の無解答率が示している「最後まで諦めない粘り強い態度」**や**家庭学習時間、自尊感情や規範意識の高まり**に表れています。

同時に今回の調査結果は、**各教科において改善が求められる分野・観点**、また、**家庭学習・読書習慣の定着**や、**自己有用感**、**地域活動との関わり**など、**必ずしも良好と言えない課題が存在していることを示唆**しています。

これらの調査結果を子どもたちの学力向上に活かすために、**学校では、調査結果を詳細に分析し、調査を実施した学年だけでなく、全学年において指導の改善につなげてまいります**。また、これまでの取組の成果と課題をまとめ、「学校だより」等でわかりやすく公表を行い、教職員はもとより、保護者・地域の皆様と情報を共有して、指導方法の工夫や家庭学習の充実等に活かしてまいります。

また、**子どもたち自身が自らの学習や生活をふり返り、家庭学習をはじめとした自学自習のサイクルの中で課題のある問題の復習や、結果を踏まえた次の目標設定を行い、今後の学習や生活の充実につなげることが重要です**。

ご家庭や地域においても、子どもたちが夢と希望を持って、自分らしい生き方を実現できるよう、今回の調査結果をもとに、子どもたちの状況に即した取組をとともに考え、行動していただくことをお願いいたします。具体的には、**子どもたちをあたたかく見守り、励ましていただくとともに、子どもたちが主体的に学び、活躍できる場面を設けていただくことが重要**だと考えます。**学力向上の基盤となる家庭での学習機会の充実・朝食を毎日食べる等の基本的な生活習慣の確立・読書習慣の定着・体験活動の充実・自尊感情の向上**に関して、ご協力・ご支援いただきますようお願いいたします。